2021年度　町田市立町田第六小学校　学校経営計画・学校評価表（自己評価・学校関係者評価）

令和4年3月1日

学校教育目標　　心豊かにたくましく、伝え合い、認め合い、学び合う子供の育成

〇目指す学校像・・・・・・・①みんなが明るく学び合い、友達と学ぶ価値や楽しさを実感し、明日の登校を待ち望む学校　②保護者・地域から信頼され、安心して子供を通わせることのできる学校　③教職員が教育に対する夢と使命感をもち、やりがいや生き甲斐をもって力を発揮できる学校
〇目指す児童・生徒像・・・①深く学ぶ子　みんなと協力し、自ら学び、伝える力を高め、確かな学力を身に付ける子　②心豊かな子　人間の多様性を認め合い、思いやりのある豊かな心と行動力をもつ子　③健康な子　命の大切さを理解し、健康で安全な生活を実践し、体力の向上に努めるたくましい子
〇目指す教師像・・・・・・①子供の成長のために資質向上に努める教師　②学校教育目標達成のために組織的に尽力する教師　③家庭・地域との連携を深め、学校との信頼関係を高める教師

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価		分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子供の姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	学校からの迅速で効果的な情報発信と受信・共有を行う。	学校だより等の掲載、学校公開や保護者会等の予定や方法の発信、緊急メールの活用、ホームページの更新を確実に行う。	4　月3回以上の更新 3　月2回以上の更新 2　月1回以上の更新 1　1ヶ月更新しなかった	4	4　保護者アンケート肯定的の回答90%以上 3　保護者アンケート肯定的の回答80%以上 2　保護者アンケート肯定的の回答70%以上 1　保護者アンケート肯定的の回答70%未満	保護者　アンケート 「学校は　保護者や地域の方に対しての情報発信をしている。」	4	【肯定的評価　93%】 ホームページの更新、メール配信、学校だより学年だよりが効果を上げている。	今年度通り、継続する。	①コロナ感染対策に追われる学校において、目の前の児童に安全・安心な学校生活を保障するための取組が大変な中で、対家庭、地域への情報発信に努め、理解と協力を得ながら教育活動を推進された点については評価したい。 ②地域人材を活用した教育活動の充実のため、地域との連携方法の見直しを行い、より効果的な協力体制づくりに努められた点は素晴らしく、高く評価したい。（まちとも算数教室、農業体験、恩田川の学習等） ③コロナの影響による社会の変化、特に家庭の変化に対応すべく、家庭、学校の役割の見直しを行う必要がある。 ④安全ボランティアの活動を学校便りとPTA広報誌に掲載され、児童、保護者、教員、地域に活動内容が浸透、助みになった。 ⑤学校の資料提供はより具体的な提示を望む。保護者の委員増員を求む。 ⑥評価領域のコメントに該当するアンケート結果の項目と結果データとの整合性が整えられていないため、読み取りがとても困難であった。このため、「分析コメント」「改善策」の内容を評価資料としにくかった。	4
			グーグルフォームを活用し、学校評価・行事アンケートの回収率を上げる。	4　アンケートの90%以上で取組を実施 3　アンケートの80%以上で取組を実施 2　アンケートの70%以上で取組を実施 1　アンケートの70%以上で取組を実施	4	4　アンケート回収率90%以上 3　アンケート回収率80%以上 2　アンケート回収率70%以上 1　アンケート回収率70%未満	保護者アンケート回収率	4	【肯定的評価　93%】 GoogleForm　と、回答の確認できなかった家庭への紙面配布と2段階で行ったことで、9割を維持できた。半面アンケートの意義についての質問があり、説明が必要。	アンケートの方法については今年度通り、2段階で行う。アンケートの意義について配布前の時期をみて学校だよりやホームページで発信する。		
		家庭や地域との連携を強化する。	地域の教材化や外部人材の活用を積極的に推進し、地域との交流や地域を生かした教育活動を充実させる。	4　各学年　年4回以上で取組を実施 3　各学年　年3回以上で取組を実施 2　各学年　年2回以上で取組を実施 1　各学年　年2回未満で取組を実施	4	4「おおむねできた」と全教員が回答した。 3　80%以上が回答した。 2　60%以上が回答した。 1　60%未満であった。	職員評価	4	各学年とも4回以上行い、VC　地域の方々に支えられた教育活動を行っている。しかし、校内の組織的取り組み体制が整っておらず、活動の目標を共有するには至っていない。算数教室は学力向上に寄与している。	活動の目的や計画について、方法を整備し、組織的に取り組む。		
			学校運営協議会において、児童の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4　毎回情報を提供した。 3　おおむね情報を提供した。 2　あまり情報を提供しなかった、 1　情報を提供しなかった。	4	4　学校運営協議会委員アンケート肯定的の回答90%以上 3　学校運営協議会委員アンケート肯定的の回答80%以上 2　学校運営協議会委員アンケート肯定的の回答70%以上 1　学校運営協議会委員アンケート肯定的の回答70%未満	学校運営協議会での回答		右欄参照			
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	国語科を基盤として、言語能力を高める指導を推進し、基礎・基本の徹底を図る。	学習規律、ノート指導、発言の仕方、板書等の共通理解を図り、授業を展開する。	4「おおむねできた」と全教員が回答した。 3　80%以上が回答した。 2　60%以上が回答した。 1　60%未満であった。	4	4　児童の80%以上が課題に対する振り返りを実施 3　児童の70%以上が課題に対する振り返りを実施 2　児童の60%以上が課題に対する振り返りを実施 1　児童の60%未満が課題に対する振り返りを実施	児童評価 「授業で習ったことがよくできるようになりました。」	4	【肯定的評価　94%】 授業では全教員が「町六スタンダード」に取り組み、見通しをもって学べるようになってきているが、一方で職員の学力に関する肯定的評価は78%であり、基礎的・基本的な学力の定着をめざす必要を感じている。	町六スタンダードの徹底。年6回の授業研究。授業では、児童へ取り組みの目標・1時間の流れを明らかに示すことで学びの道筋やゴールを示す。	①コロナ感染対策のための制限が教育活動に与えた影響は大きかったと考えている。特に、児童が思うように満足できるまでの活動をできない状況にあることは、憂うことである。 ②算数習熟度別指導は、児童の学力向上のための手立てのー つ。評価が必要だと思う。 ③放課後学習として実施している「まちとも」学習教室の展開・推進は今後も継続していくことを望みたい。特に、算数教室に参加している児童の学習姿勢や学習効果面での変容は評価できる。 ④タブレットを使っての家庭学習のさせ方について今後の課題として学校体制で検討していただきたい。便利な面、不便な面を考慮しながら時代に沿っていくしかない。各学校が個別に対処するばかりでなく学校の枠組みを超えて問題点や解決策や工夫などの情報共有ができる仕組みがあるべき。 ⑤読書時間の確保を望む。 ⑥授業に集中できにくい児童も増加傾向になっていると思われる。	4
			書くこと、話すこと、ICTを活用して表現すること等を通して、自分の思いや考えを他者に伝える学習活動を設定する。	4「おおむねできた」と全教員が回答した。 3　80%以上が回答した。 2　60%以上が回答した。 1　60%未満であった。	3	4　児童の80%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 3　児童の70%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 2　児童の60%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 1　児童の60%未満が自分の考えを表現し、学び合いで発言	児童評価　新設 「授業で、自分の考えを伝えることができた。」	4	【肯定的評価　82%】 校内研究で取り組んだ成果はあがってきている。感染に配慮しながら、表現する機会を意識して設定したり、GoogleMeetを活用して集会を行ったりするなど工夫した。	感染に配慮しながら、自分の考えや成果を他者に伝える機会をつくり、伝えてよかったという実感をもたせる。		
		児童の学ぶ意欲を高め、児童が共に伝え合い、高め合い、共に学ぶことにより、他者と学ぶ価値や楽しさを実感できる授業をつくる。	授業改善推進プランを授業に生かす。	4「おおむねできた」と全教員が回答した。 3　80%以上が回答した。 2　60%以上が回答した。 1　60%未満であった。	3	4　保護者アンケート「各教科の基礎的・基本的なことがらが身に付いてきている。」との肯定的回答で80%以上 3　保護者アンケート肯定的の回答70%以上 2　保護者アンケート肯定的の回答60%以上 1　保護者アンケート肯定的の回答60%未満	保護者アンケート 「各教科の基礎的・基本的なことがらが身に付いてきている。」	4	【肯定的評価　88%】成果物や授業参観、日常のテスト等、家庭での会話などから概ね身に付いているという評価をいただいていると考えられる。長期休業前に学習カルテを作成し、形成的評価を保護者に伝えたことも、有効であった。引き続き日頃の学習成果が家庭に伝わるよう努めたい。	育てたい資質・能力や到達度について保護者会などを通して説明し、個人面談では、一人一人の努力や成果を伝える。保護者と学習のねらいや取り組みを共有する。家庭学習への取組について協力を依頼する。		
			学びを深め、人間関係を深めるために、授業の中に二人組やグループでの話し合いを取り入れ、伝え合う学習活動を設定している。	4　1日に1回以上行った。 3　週に2～3回行った。 2　週に1回程度行った。 1　ほとんど行わなかった。	3	4　学習効果が高まった児童が80%以上 3　学習効果が高まった児童が70%以上 2　学習効果が高まった児童が50%以上 1　学習効果が高まった児童が50%未満	児童アンケート新設 （低学年）「はなしあうことができました。」 （高学年）「友達と話し合い、考えを深めたり広げたりすることができた。」	4	【肯定的評価　90%】 校内研究での成果。話し合い活動については、講師に「相手の話を聞いて、（考えてそれについて意見を返す）」ということへの課題を指摘されている。話し合う力についての研究・実践をすすめたい。	校内研究のテーマを今年の課題に則って決定し、資質・能力の向上に向けた、具体的で段階的な指導方法を構築する。		
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	「町六小のきまり」に基づいた指導の徹底により規範意識を高め、安全で楽しい学校生活を送れるようにする。	町六スタンダードの全学級での完全実施、全教員での指導の徹底を図る。	4「おおむねできた」と全教員が回答した。 3　80%以上が回答した。 2　60%以上が回答した。 1　60%未満であった。	4	4　保護者アンケート「学校のきまりや家庭でのきまりを守っている。」との肯定的回答で80%以上 3　保護者アンケート肯定的の回答70%以上 2　保護者アンケート肯定的の回答60%以上 1　保護者アンケート肯定的の回答60%未満	保護者アンケート 「学校のきまりや家庭でのきまりを守っている」	4	【肯定的評価90%】 概ねきまりを守って生活できている。不十分な場面では、何のためのきまりなのかという意識が十分ではないことや、習慣化されていないことが多い。	廊下歩行などの安全のためのきまり、学習のルールなどの集団で過ごしたり、学び合ったりするためのきまりなど、道徳の学習や児童会活動など学校生活全般でその意味を考えさせながら定着を図る。	①職員の「いじめや暴力」に対する関心が高く、日常生活での気配りは評価したい。いじめ問題については「自分がされて（言われて）嫌なことは他人にしない（言わない）」自分の身に置き換えて考えることが大切である。「自分がされて嬉しいことを他人にしてあげる」 ②評価項目「あいさつ」については、高学年になるほど、児童の挨拶意識が低くなっているのではないか。 ③子供たちが互いを思いやり、自然に他者に手を差し伸べている場面を今年度も何度も見かけ、いつもなかに感心している。（遅刻しそうな1年生の手を引っぱって連れていく6年生、作品展に向け、作品作りが遅れているクラスメイトを応援する子、炎天下で気分が悪くなった友達をみんながあおいで風をおくる、まちともタブレット教室では小さい子に順番をゆずり、体験学習では片付けも何も言わないでも率先して手伝う） ⑤やまばと学級があるため、自然に相手を思いやる気持ちが育っている。 ⑥道徳授業でいじめ防止にかなり取り組んでいる。保護者にもその取組についてプリントなどで常に伝えていかれるとよい。	3
			月1回「心のアンケート」や日常の観察・カウンセリングを通して、児童の悩みを捉え、組織的に対応する。	4「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3　80%以上の教員が回答した。 2　60%以上の教員が回答した。 1　60%未満であった。	4	4　保護者アンケート「学校は、いじめ防止や体罰防止に取り組み、子供の人権を大切にしている。」との肯定的回答で80%以上 3　保護者アンケート肯定的の回答70%以上 2　保護者アンケート肯定的の回答60%以上 1　保護者アンケート肯定的の回答60%未満	保護者アンケート 「学校は、いじめ防止や体罰防止に取り組み、子供の人権を大切にしている。」	3	【肯定的評価　73%】 「わからない」が22%　学校での取り組みが保護者に伝わっていない。感染症対策のため、保護者会や授業参観などが減り、説明する機会がないままになっている。	学校での取り組みを保護者に知らせる。学年だより、学校だより、ホームページでの広報。		
		学級を中心とした道徳教育や様々な人との関わりを充実させ、豊かな心を育む。	年3回以上いじめに関する道徳授業を実施する。	4　年に3回以上実施した。 3　年に2回実施した。 2　年に1回実施した。 1　実施しなかった。	4	4　保護者アンケート「学校は、いじめ防止や体罰防止に取り組み、子供の人権を大切にしている。」との肯定的回答80%以上 3　保護者アンケート肯定的の回答70%以上 2　保護者アンケート肯定的の回答60%以上 1　保護者アンケート肯定的の回答60%未満	保護者アンケート新設 「学校は道徳の授業などを通していじめについての指導をしている」	2	【肯定的評価　67%】 「わからない」が27%　年間3回のいじめについての授業を行っているが、保護者に伝わっていない。	道徳授業地区公開講座を中心に、授業参観ができるようになった場合は、積極的に道徳の授業を公開する。また、学校での取り組みを保護者会や学年だより等で説明する。		
			道徳授業推進教師による研修や、国、都及び市の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4　学期に2回以上行った。 3　学期に1回行った。 2　年間1回行った 1　実施しなかった。	4	4　保護者アンケート肯定的の回答90%以上 3　保護者アンケート肯定的の回答80%以上 2　保護者アンケート肯定的の回答70%以上 1　保護者アンケート肯定的の回答70%未満	保護者アンケート新設 「いじめや暴力はいけないことだと分かり、やさしい言葉遣いや行動ができる。」	3	【肯定的評価89%】 肯定的評価が高くはなっているが、一方で　否定的評価が8%「わからない」が0.3%　児童の回答でも　6%が否定的回答となっている。	人権意識の向上だけでなく、なくすための具体的な行動などについても指導支援する。傾聴・支援を丁寧に行い、納得した行動がとれるようにするとともに、保護者への連絡をこまめに行い、学校と家庭の協力体制を構築する。		
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	体力テストの結果分析を生かした体育科の授業や体育的行事、休み時間などの機会を通して、運動の日常化を図る。	4「おおむねできた」と全教員が回答した。 3　80%以上が回答した。 2　60%以上が回答した。 1　60%未満であった。	3	4　児童アンケート「休み時間は外で遊んだり、運動をしたりしています。」80%以上 3　児童アンケート70%以上 2　児童アンケート60%以上 1　児童アンケート50%未満	児童アンケート 「休み時間は外で遊んだり、運動をしたりしています。」	4	【肯定的評価84%】 よく外で遊んでいる。昨年度からの感染対策で外で活動する機会が減ったこと、校舎の改装によって校庭が狭くなった時期があることなどから、体力の衰えが懸念される。	感染対策を講じ、暑い時期、寒い時期を除いて、屋外で活動することや、体育集会など体力の向上を図る取り組みをする。同時に児童の様子をよく観察し、無理のないように取り組む。	①朝ご飯をしっかり食べている児童が多いことは、健康な体をつくるうえで大切な習慣なので、高く評価したい。 ②反面、早寝早起きの児童は減少したのではないか。夜更かし傾向の児童が増えてきているのでは、と気になっている。 ③コロナ禍の生活が、児童の基礎体力を確実に低下させているのではないか。プレハブ校舎撤去された今、児童には休み時間に校庭でしっかり遊ぶことを望みたい。町六祭りで体育館にて行われる遊びが体力づくりに良い動きばかりなので、体育の日が雨だった時にロープ運動などができるとよい。水泳、持久走、団体競技などを積極的に実施することは難しく体験学習の時に子供たちの体力不足を感じることも多々あった。学校の垣根を越えて情報共有や交換を行い、取り組まなければならない。 ④登校時に危険と感じたことはその都度学校に報告し、すぐに対応いただいている。不審者情報、交通事故防止などがすぐに送信されてくるのはとても良かった。	4
			給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4「おおむねできた」と全教員が回答した。 3　80%以上が回答した。 2　60%以上が回答した。 1　60%未満であった。	3	4　保護者アンケート肯定的の回答80%以上 3　保護者アンケート肯定的の回答70%以上 2　保護者アンケート肯定的の回答60%以上 1　保護者アンケート肯定的の回答60%未満	保護者アンケート新設 「食に関する知識や望ましい食習慣、生活習慣が身に付いている。」	4	【肯定的評価80%】 概ね身に付いている。栄養面だけでなく、季節の行事や世界の食文化についても給食指導の中で行えている。栄養士が配膳・食事などに関わり、児童の様子を把握している。	今後とも、保健だより、給食だより、家庭科の学習などを通して、食生活を意識できるようにする。		
		校内の安全な生活環境を整え、自分を守り相手を守る安全教育の実施と危機管理体制を確立する。	遊びのルール、廊下・階段の歩行など学校のきまりを守って生活する。	4　90%以上の指導場面で実施 3　80%以上の指導場面で実施 2　70%以上の指導場面で実施 1　70%未満の指導場面で実施	3	4　保護者アンケート肯定的の回答80%以上 3　保護者アンケート肯定的の回答70%以上 2　保護者アンケート肯定的の回答60%以上 1　保護者アンケート肯定的の回答60%未満	保護者アンケート 「交通事故防止や不審者対応などの安全意識が身に付いている。」	4	【肯定的評価82%】 地域の方から、通学路について指導するようご指摘いただいたことがあり、担任から家庭と連携することがあった。また、曖昧な不審者情報が広まることがあり、正確な情報の伝達が必要。	定期的に通学路や交通安全について、具体的な行動ともに指導を重ねる。不審者対応の学習と、職員への正確な情報の伝達を行う。		
			危機管理情報（健康・問題行動・安全等）を校内で共有する。	4　90%以上の必要情報に対して実施 3　80%以上の必要情報に対して実施 2　70%以上の必要情報に対して実施 1　70%未満の必要情報に対して実施	4	4　保護者アンケート肯定的の回答90%以上 3　保護者アンケート肯定的の回答80%以上 2　保護者アンケート肯定的の回答70%以上 1　保護者アンケート肯定的の回答70%未満	保護者アンケート新設 「児童の健康状態や行動が、学校に伝わっている。」	3	【肯定的評価87%】 アレルギー面談や入退院時の相談はできているが、日常的な伝達に課題が残る。保護者の意図とは違う対応をとってしまうことがあった。	児童の表面的な様子ではなく、保護者からの正確な情報で判断するよう徹底する。保護者に速やかに連絡し、対応の仕方について伝えるようにする。		